

# フーテン人生

## 無邪気な

### 視点

# #01

## 豊かな国、日本

類と絶対数が集中する地域は世界でも比類ない。

和食材料には明確な地域性があり、且つ季節感がある。ご当地グルメや旬を手軽に楽しめるというのは、世界でもかなり稀で贅沢なことだ。逆に、日本人の海外旅行に同行して困るのは「ご当地グルメは？」と聞かれること。ないわけではないが、海外で手軽には味わえない。

通算で20年、人生の5分の2を海外で暮らして来た。たまに日本に帰ると、日本は世界のどの国よりも豊かななあと思う。しかし、国際理解かだなあと思う。しかし、国際理解講演の場で、あるいは居酒屋に集まってくれる日本国内派の友人たちに、そんな話をしていると意外な顔をされる。読者の皆さんも意外に思うのだろうか。

日本の場合、豊かさに多少の地域差や個人差はあっても平均的な水準が高い。食材などの消費財は種類も多く適正価。電化製品、自動車、住設などの耐久消費財は最新安価で何でも揃うし、性能も抜群である。そして、何よりも自然が豊かだから、自給食材も豊富だ。生物多様性の種で見ても、日本列島ほど動植物の種

言われそうだが、あの豊かさは個人が富を独占した結果であって、共有できる豊かさを示しているわけではない。

一方、エネルギーや資源の面で言えば、日本は「持たざる国」と教育されてきた。今回はその真意を説かないが、資源の豊かさが優先されるようになったのは、英国で産業革命が始まり、功利主義経済が捧まれるようになった200年に満たない最近の歴史だ。黒船が来るまでの日本は、人が暮らして行くだけなら十分な豊かな自然資源を備えていた。

また、欧州や英米であれ、中東の金持ち国であれ、比較してみると日本ほど民度が高く、豊かで、風光明媚で、安全で暮らしやすい国は他にない。では、ドバイの街やロンドンのメイフェア地区には世界の富が集まっていて、目にするものがすべて豪華だけど、あれはどうなのよ。と

ロンドンを例えにするなら、表通りには豪奢を極めていても裏通りは労働者の住まう貧民窟が顕在する。それゆえ、産業革命ごろから行政によって危険回避情報として「貧困マップ」が作成されていた。現在でも地域の変動こそあれ、移民や難民の流入で貧困地域は消えていない。つまり、日本は豊かさが平均的に分散されているが、英国ではいまだに貧富の差が激しい。それゆえに窃盗犯罪も多いし、凶悪事件の原因も所得と教育の不足に拠るものが多いだけに、民度の平均点も日本より低い。

英国が大航海時代に世界の覇権を握ったと言われるのは18世紀の終わりである。フランスと競って、世界を食い物にする植民政策を取ってきたのは、水産業を軽んじ、国内の農業をダメにしてしまったから、食料の扶持を求めて海に出ただけのことだ。栄光ある大英帝国とか紳士淑女の国などはちゃんちゃらオカシイのである。

そんな英国の食事が「マズイ」と言われる最大の理由は、彼らの食に対する無頓着さである。よく言えば質実剛健、言い換えれば足るを知る人々なので、食は後回しにされたという説もある。しかし、旨いものは英国にもたくさんある。昨今、英国に在住する我々外国人がそれらを見つけ出して、英国人に食べさせると彼らも食の楽しみに気づいてしまったようだ。英食は「マズイ」とバカにしてやうだ。英食は「マズイ」とバカにしてやうだ。英食は「マズイ」とバカにしてやうだ。最近の英国食は妙とつであつたが、最近の英国食は妙に旨い。英国の象徴である「マズイ」が失われるようで、むしろ残念に思う。……とは、ちょっと意地悪だろうか。

### マック木下

ゼネコン、商社、航空旅行業、世界的弱電企業などの国際畑で育ち過ぎた50代。1980年代から主に英国に住み、英人が本名をちゃんと発音できなかつたので、いつしかマックに。ジャンルには無節操なライターで、執筆歴は10年間ほど。専門は日英関係史とロンドンの歴史散歩。寄稿先は『英国特集』『R.S.V.P.』『Quality Britain』『Taste of Britain』『未来教室』『ぼんじゅーるレマン』のほかミニコミや会員誌など。